

西南「愛」を形として

高校同窓会では、西南学院の創立100周年に向け、2010年から周年行事積立を始めました。2015年にその積立金をどのように活用するかを検討する委員会を立ち上げ、様々な事業提案がなされました。その議論の特徴として今でもよく覚えているのは、金品の贈呈や記念碑のような構築物というような意見はほぼなく、西南らしい継続的な活動に充てるという意見が殆どでした。

中でも現在、財団活動の中核である無料英語教室の素案があり、それを中核に据え、ただし、それに特化することなく、青少年の健全な育成や社会貢献に寄与する活動を広げていこう、そのために積立てたお金を原資とした財団を設立し、その財団で英語教室を皮切りに様々な事業を考えていこうということとなったのです。

高校同窓生で財団を創り、青少年の育成や社会貢献を続けて行こう、そしてそれを通じて母校への恩返しをしたい。こんな同窓会が果たして、どれほどあるでしょうか。実に西南らしい、思いのこもった活動であると私も胸を

張って言えます。昨年より西南学院中学、西南学院大学の同窓会もこの活動に賛同いただき、今では西南学院同窓会連合会での活動に進化しています。

私も設立から5年間、専務理事として関わらせていただき、心から感じていることは、我々同窓生は在校中に麦(愛)の種を植えられた。人によって時は違えども皆の心のなかで種は芽吹き、やがて人を愛するという形で穂を実らせて来た。今、我々がその種を蒔きたい。心からそう感じております。

この活動は財団に関わる人だけの活動ではありません。西南学院高校同窓会が創生した財団です。同窓生全員の思いで更に育てて参りましょう。これからも財団の活動に注目いただき、どうぞご理解とご支援をお願いいたします。



西南学院高等学校同窓会
会長 川崎 俊雄

人情の風吹かせて、いつまでも

財団の5年の歩みに敬意を表します。この財団は、中高大合同の「オール西南」の取り組みですが、実質的には高校同窓会がリードしています。活動内容も無料英語教室から国際的な学生会議への支援等、西南らしい、教育や平和がテーマのものです。しかし、私がとりわけ深い感銘を受けるのは、福岡市里親会が開催する行事での活動です。里親のもとで暮らす子供たちへ握り寿司を差し入れ、その寿司は、全て高校OBで本職の皆さんの無料奉仕です。

高校同窓会が細やかな人情集団であるのに加え、卒業生がどこで何をしているか、同窓会の正確な情報把握なくして実現はできません。正に、高校同窓会の深い情報力のなせる業です。脱帽というほかありません。



西南学院大学同窓会
会長 岩崎 文正

中学同窓会としても何かを

財団設立5周年おめでとうございます。

私も西南学院中学校同窓会副会長の頃から、西南一粒の麦基金を設立したことは聞いていましたが、どんな活動を行っているのだろうと思っていました。財団の色々な活動を知ると、こんな活動を同窓会が中心となった団体が本当に出来るのだろうか心配もしていましたが、早5年、素晴らしいと思います。

私も2年前に中学同窓会会長になって以来、この活動を励みに、中学同窓会でも子供たちに何か役に立つことが出来ればと思っています。大学同窓会と我々中学同窓会の会長、専務理事も、この財団の評議員として参加させていただいており、何か少しでもお役に立てればと思っています。



西南学院中学校同窓会
会長 穴見 恭二